
小指

器用貧乏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小指

【コード】

N2996Y

【作者名】

器用貧乏

【あらすじ】

当たり前の事が当たり前じゃなくなつた時に有難さが分かることもある。

「小指って必要あるのかな、なんて思ってたわけ」

ギプスで固められた小指をさすりながら話し出した。恥ずかしい話だが女性社員に呼ばれて振り向いたら、ドアの角に小指をぶつけて『ポキッ』。苦悶の表情を女性社員は俺が笑わそうと勘違いしたらしく大笑い。いやいや、笑ってないで早く救急車を…。なんて男の俺が言えるはずもなく、即座に上司に事情を話して早退した。

「うん、それで？」

隣りに座っている綾香が相槌を打つ。今日は日曜日、休みの日は今日のように俺の家で過ごすことが多い。たまには外に…、とも思うのだが綾香はこうしてのんびり過ごす方が好きなのだからそうしている。

「めっちゃ必要あるんだよ、これが。こうやってタオルを絞ろうとするだろ」

両手でタオルを絞る。しかし骨折した小指は曲げられないので小指だけピンと立った状態で。まるで『私はこれで会社を辞めました』の某有名CMの真似みたいだ、と少し笑えた。

「力が入らねえんだ。いや入らないんじゃない、うまく力を伝えられないという表現の方が正しいか。自分では力一杯やっていていつもは出来ていたことが、小指が使えないだけで出来ねえんだ、ほら」

ねじりの緩いタオルを見せた。直角に、まるで天井を指差しているように突き出ている小指が違和感たつぶりだ。

「あはは、本当だ。面白いね、その格好」

手で口を隠して笑った。目が山の稜線のようになだらかな曲線を描いていて愛らしい。

「だろ？小指ってすごい力を持つてるんだよ。最後の後押しをして

くれるっていうか…、そういう感じの力が」

小指の事を熱っぽく語っていることに少々恥じらいを感じたが本当にそう思っているのだから仕方ない。

「そうだね、小指は大事だよ。だって…、あの時やってくれたみたいに『指切りげんまん』が出来ないじゃない」

そう言う俺の、折れた方の小指を自分の小指と絡み合わせ『指切り』をしようとした。

「痛ててて!!」

痛さとビックリしたのとで飛び上がりそうに立ち上がった。何するんだ、と綾香の方を見るとゴメンと手を合わせていたずらっぽく笑った。合わせた左手の薬指には俺の給料の2ヶ月分がキラリと輝いている。

「結婚式までに直ればいいね」

そう言う俺の小指を撫でた。

了
>

<

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2996y/>

小指

2011年11月13日09時40分発行